

高梁の文化收藏品

今月号は、吉備川上ふれあい漫画美術館に収蔵されている貴重本の一部を紹介いたします。

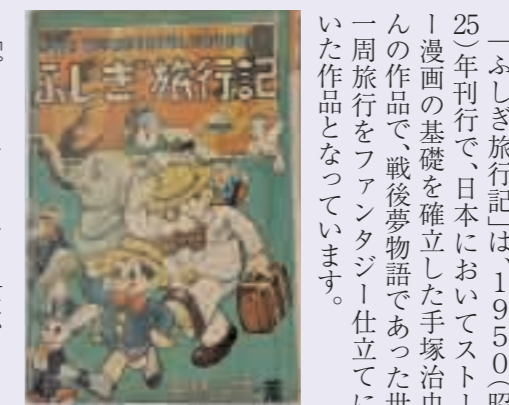
■問い合わせ 吉備川上ふれあい漫画美術館
☎0836064

【お伽 正チャンの冒険】



吉備川上ふれあい漫画美術館には、全国の皆様から寄贈いただいた漫画本など12万冊が所蔵されています。今回はその中でも貴重な本の一部を紹介いたします。

「お伽 正チャンの冒険七の巻(作:小星画・東風人)」は、1925(大正15)年刊行で当館に収蔵されている本の中では最も古い本となっています。主人公の正チャンと相棒のリスによる冒険を描き、西洋的な要素を取り入れた絵柄で当時の読者に大好評となった本です。



「ふしぎ旅行記」は、1950(昭和25)年刊行で、日本においてストーリー漫画の基礎を確立した手塚治虫さんの作品で、戦後夢物語であった世界一周旅行をファンタジー仕立てに描いた作品となっています。

「プラスチックマン」は、1958(昭和33)年刊行でゲゲゲの鬼太郎などで有名な水木しげるさんの初期単行本のひとつで、現在も古本市場では絶大な人気で入手困難な本となっています。



【プラスチックマン】

シリーズ

歴史まちづくりセミナー 12

歴史まちづくり計画から「吹屋の風致」③について紹介します。

■問い合わせ 歴史まちづくり課 ☎083602517

④ 吹屋の神社祭礼

(先月号からの続き)
吹屋に伝わる伝統祭事など人々の歴史的活動は、歴史的建造物と一体となって良好な町の風情を醸し出しています。毎年11月3日に高草八幡神社の秋季例祭が行われ、神輿とともに渡り拍子が古くから行われています。



高草八幡神社秋季例祭の神輿

⑤ 吹屋に残る民間信仰

町方地区や銅山周辺には、鉦夫の町がありました。「山方」地区と呼ばれ、町並みはなくなっただけではありません。民間信仰が今でも受け継がれています。吹屋の町並み南側の山中には全長約3キロのお大師道(吹屋八十八箇所巡り)があり、一番札

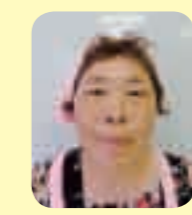
宝亀2(771)年の創建といわれ、地元銅山師の大塚家やベンガラのお師匠山家、鉄の中継問屋長尾家など、吹屋の豪商らにより手厚く祀られていました。神輿と渡り拍子の一行は、神社を出発し、千枚から吹屋の町並みを練り歩きます。ベンガラ壁や赤茶色の石州瓦に彩られた昔ながらの町並みや吹屋小学校の前を歩く一行は、たいへん華やかで、かつての繁栄をしのばせます。

菜の花のとろろかけ

春になると山菜や木の芽など季節感のある野菜が出回ります。中でも菜の花は緑黄色野菜で、つぼみには花を咲かせるための栄養素であるビタミンA・C、ミネラルが豊富に含まれています。これらは免疫力を高め、風邪の予防、美肌効果があると言われています。

今月のレシピ提供は

市栄養改善協議会連合会川上支部
武田 禮子 さん



1人分の栄養価 エネルギー 69kcal、たんぱく質 3.7g、脂質0.5g

<材料> (4人分)

- 菜の花 160g
- セリ 40g
- 生シイタケ 20g
- 長イモ 180g
- ポン酢 20cc
- 刻みのり 少々
- 練りわさび 少々

<作り方>

- ①菜の花とセリはたっぷりの湯でさっとゆでて水気を切り、3センチの長さに切っておく。
- ②生シイタケは石づきを取り、薄切りにしてゆで水気を切っておく。
- ③長イモは皮をむき、酢水につけて色止めをしてから、すりおろす。
- ④器に①と②を混ぜてポン酢で和え、すりおろした長イモをかける。刻みのりを飾り、好みで練りわさびを添える。

※このレシピは、行政チャンネル、市ホームページでも紹介します。



お大師道(吹屋八十八箇所巡り)

所の銅栄寺境内の石仏で始まり、町並みを通り抜けて奥千枚にある八十八番札所で終わります。

地元住民らに手厚く祀られ、春と秋の彼岸には巡礼道を清掃し、一番札所は中町、八十八番札所は千枚の住民らによってお接待(赤飯おにぎり、お菓子、お茶、お酒などを多くの参拝者に振る舞うこと)が行われています。

吹屋と坂本の境界(千枚)にある通称「腰折れ地蔵」は、明治7(1874)年に三菱商会により吉岡銅山が営業を始めた後、吉岡銅山で働いていた人たちが祀ったのが始まりと伝えられています。銅山での仕事は危険が多く、屈み仕事が多いので、朝晩無事を祈って通っていました。

特に腰から下の病に霊験ありといわれているため、今でも多くの人が御利益を求め参詣し、毎年5月には千枚、中町、下町の一部住民らによって、春祭りが行われています。

⑥ 往時をしのばせる吹屋

吹屋は銅山で発展し、ベンガラでさらに繁栄して富を蓄えてきた地域で、吹屋独特の歴史ある町並みは、ベンガラで栄えた面影を色濃く残しています。銅山師や地元の人から手厚く祀られ、歴史ある町並みを背景に今も盛大に行われる秋祭りや、銅山の町であるがゆえの信仰など、そこに暮らす人々の生活は往時栄えた時代をしのばせます。

高梁市には吹屋だけでなく、これまで紹介してきたように、城下町高梁や備中神楽、渡り拍子など、歴史ある町並みと豊かな自然の恵みを願う祭礼行事などが一体となって醸し出す風情、情緒、たたずまい(歴史的風致)が今も各地域で大切に受け継がれています。